

(陳受29第12号)

武蔵野市水道部の地下水くみ上げ減量に関する陳情

受理年月日

平成29年8月29日

陳情者

吉祥寺本町1-12-2 HINOビル3F
「東京吉祥寺ライオンズクラブ」
会長 井澤 せい子

陳情の要旨

2004年の12月議会に私たち東京吉祥寺ライオンズクラブは、開園100周年までに「井の頭公園七井池の水質改善と在来魚の保護育成」を願い東京都に意見書を提出してほしい旨の陳情を提出いたしました。即決で採択賜り、陳情と同趣旨の意見書を東京都に提出していただきました。以来12年余りの時間の中で、私たちのいろいろな試みや公園当局の調査研究、井の頭かんさつ会その他の環境団体などの取り組みにより、運動が大きく盛り上がりを見せて、池のかいぼり実施という形で実効性のある事業が実現いたしました。現在本年12月に予定されている3回目のかいぼりに向けて準備が進んでいるところであります。

さて、井の頭池は有史以来湧き水が大量に湧き出して、江戸時代は神田上水の水源の一つとして大都市江戸の発展を支える貴重な飲み水として利用されておりました。その井の頭池が1963年、突然湧き水がとまり池が干上がってしまいました。それ以来池の水は池周辺に掘られた井戸からの注水によって水面が保たれております。

本年1月28日、三鷹市公会堂において、井の頭恩賜公園100年実行委員会主催の「井の頭池かいぼり報告会」が開催されました。最初に「井の頭池の湧水復活に向けて」と題して守田優芝浦工業大学教授の基調講演がありました。守田教授の講演は、1963年5月18日に放映されたNHKの番組「現代の記録」シリーズの中の「都市と水路」という番組のアーカイブスを1980年代半ばに見て、その中に出てきた井の頭池の干上がってしまったシーンに衝撃を受けて、それまで自分が考えていたことが間違っていたのではないかと、何か重要な原因が隠されているのではないかと考えた、というところから始まっています。その後の部分は省略し、資料として全文を添付いたしますが、結論は深井戸から長期にわたり大量の地下水をくみ過ぎた結果、浅い不圧地下水が被圧帯水層へ漏水して不圧地下水面が下がって湧き水が枯渇してしまう、というものであります。講演の中で武蔵野市、三鷹市、小金井市、三市のデータが並べられておりますが揚水強度の比較では武蔵野市だけが際立って高くなっております。これは三市の中でも武蔵野市の地下水くみ上げが環境により強く影響を及ぼしているということにほかなりません。

井の頭池が干上がった1963年当時、池が干上がった原因について「池の西側に建てられたマンション工場の影響で地下水脈が切られたから井の頭池が干上がってしまった」といううわさが流れました。しかしそんなことはないということは地下水の専門家が一樣に述べているところであります。武蔵野市当局は井の頭池が干上がった本当の原因を知っていたのではないのでしょうか。安価な水道を維持するため、このことは譲れない現実問題として公営企業会計を守る意味からも、井の頭池の干上がり事件は一切論議もされずに無視され続けてきたのではないのでしょうか。

か。地下水のくみ上げによって武蔵野市の水道事業は成り立ってきましたが、貴重な水環境に多大な悪影響を及ぼしてしまった事実を認めて、根本的に改めてはいかがでしょうか。地下水依存の水道事業から極力地下水依存度を下げの方策を目指して東京都水道局との一元化の方向でかじを切るときが来たのではないかと思います。

つきましては地下水保護を第一に考える水道行政を実現し、井の頭池の湧き水復活に達するまで地下水のくみ上げ量を減量してください。